

今年4月から、南相木村診療所に勤務しております、向山和彦と申します。

佐久に引っ越してきたのは、昨年4月。1年余りが経過しました。それまでは、茨城県神<sup>かみ</sup>栖市（鹿島臨海工業地帯）の診療所に勤務しておりました。



秋の南相木村

（右の建物は日記No.10で紹介された民俗資料館）

です。周りに素敵な人たちが囲んでいたり、精力的に身の回りの活動に取り組んでいたり、人とのかかわりはなくとも野菜作りや散歩など、その日その日を淡々とではあるが、かみしめるように過ごされていたり。

佐久地域に移住し、私が強く感じるのは、この自然とのつながりです。通勤途中の景色や訪問診療での風景に、季節折々の味わいを感じますし、患者さんとのお話の中でも、その季節の中で、上手に向き合いながら生きている感じが感じられるのです。

私も61歳となり、人生も半ばを過ぎてしまいました。一人の人間として悔いのない後半生を送りたいと思います。この南佐久地域での医療活動を通して、豊かな関係性が築いていけるよう、頑張ります。

神栖の診療所にも南佐久地域の診療所にも、元気なお年寄りが通ってきておられます。「その元気の源は何だろう、共通しているものは何だろう」と考えることがあります。

「その方々の持っている関係性ではないだろうか」というのが今のところの答えです。

関係性というのは、人とのつながり・社会的活動・自然とのかかわり、などのこと



子どもとともに